

関西万博 8月に出展

マークテック バッテリーのリサイクル需要 拡大に向けて分析・検査PR

マークテックは8月15日～17日の3日間、大阪・関西万博TEAM EXPOでサステナブルリサイクルの取り組みを出展する。

テーマは「リチウムイオンバッテリーの回収・資源循環の確立とサステナブルリサイクルの実現」で、マークテックのほか、リーテックリニューアブルエナジーソリューションズ（リーテックRES）、KDDI、エマルジョンフローテクノロジー、商船三井の、合わせて5社が共創チャレンジを行う。

大阪・関西万博のフューチャーライフゾーン内「TEAM EXPOパビリオン」において、使用済みリチウムイオンバッテリーの安全回収と輸送ケースのプロトタイプや資源粒子分析装置、精錬したリサイクル材料、精錬プラントモデルなどを展示する。

8月15日には各社の取り組み発表やパネルディスカッションによる講演も実施する。

同プロジェクトは5社がそれぞれの強みを生かし①バッテリーの処理方法の周知②回収するバッテリーの適切な輸送③バッテリーの適切な処理（高純度ブラックマスの抽出・生成）④ブラックマス内のレアメタルの抽出⑤抽出したブラックマスやレア



メタルの成分・組成分析等を通じた検査——まで一連の体制を構築する。これによりリサイクル材の利活用を支援し、サイキエコノミーの実現を目指す。

このうちマークテックは、リサイクル材の性能や成分組成の分析、検査を担当する。同社は今年3月、バッテリーのリサイクルビジネスに関して、リーテックRES、ハイテクノライズ、ナノシーズとの4社間で業務提携を締結した。自動車をはじめとする分野において、ニーズが高まる電池材料の分析技術サービスを提供を推進する狙い。

国内産業においては近年、EV化のみならずスマートフォンやスマート家電、ポータブルバッテリー等の市場が拡大しており、リチウムイオンバッテリーのさらなる需要増加が見込まれる。

これにともない廃棄バッテリーの増加も予想される。リチウムイオンバッテリーには希少資源のレアメタルが使用されており、リサイクル関連の技術サービスについても需要拡大が見込まれる。

産報出版株式会社 発行

検査機器ニュース 第1541号 (2025年6月5日)